Friends Topics
フレンズ・トピックス

高齢者福祉部門の全事業所が参加して職員研修大会（第５回）

平成29年1月20日（金）18:45～21:00

研修大会の様子

一年の計は職場研修にあり新年に集う

通算５回目を迎えた職員研修大会は、期日をこれまでの12月から１月に移して行われました。１事業所から２事例を出した下馬あんしんすこやかセンター、初めて発表した施設管理課の事例が加わり、過去最多の９事例が集まりました。

今回は、主題と内容について、幹部会による第１次審査が行われ、全事例が共通のフォーマットでまとめられるように進行管理が行われ、審査方法は外部委員３名に法人理事長を審査委員長とする審査委員の合議で、最優秀賞１題、優秀賞２題が選ばれました。発表後の質疑や講評の中で、高い稼働率を維持し続けているデイ・ホーム上馬の取り組み姿勢が最優秀賞につながっていること、百個のダンボールが物語る膨大な書類・印刷物の廃棄と事務室の整頓のプロセスは、課員全員の労務の勲章でした。

研修大会を終えて

外部委員3名が審査に加わって

小原眞知子氏（日本社会事業大学）
木谷哲三氏（世田谷区社会福祉事業団）
鍋田　浩氏（居宅介護支援事業所ウェーブ）

発表事例　発表者氏名は省略

◎最優秀賞（１題）

サービス導入が困難な方への関わり……デイ・ホーム上馬

◎優秀賞（２題）

1. 高次脳機能障害を抱える利用者の受入れ
　～認知症との違いを理解する～……デイ・ホーム中丸
2. 事務室の環境整備 ～書類整理サイクルの実践で見えてきたもの～……施設管理課

◎その他の６題

- みんなで体操の先生になろう……上馬あんしんすこやかセンター
- 地区のケアマネ支援……下馬あんしんすこやかセンター
- 男性体操教室立ち上げに向けての試み……下馬あんしんすこやかセンター
- デイサービスにおけるヒートショック対策……フレンズケアセンター
- 手作りお神輿 ～一緒に夢を担ごう ～……フレンズホーム
- 認知症の夫と脳梗塞による失語症の妻との在宅生活を支える
　～失語症発症後の在宅生活支援～……フレンズ介護保険サービス

日本フレンズ奉仕団事業概要
（平成29年6月現在）

- 社会福祉事業
  - 高齢者福祉部門
    - 特別養護老人ホーム：１カ所
    - 短期入所生活介護（ショートステイ）
    - 通所介護事業所：３カ所
    - 認知症対応型通所介護事業所：２カ所
  - 児童福祉部門
    - 保育所：本園２カ所、分園２カ所
- 公益事業
  - 居宅介護支援事業所：１カ所
  - 地域包括支援センター（世田谷区委託）：２カ所

編集後記

本号は着工まで3年の歳月を要して、4月1日開園を迎えたララ保育園を特集しています。編集にあたっては、限られた紙面に写真や図面を用いていかに魅力ある保育環境をお伝えできるかに腐心しました。

児童の声が騒音として受け止められるご時世に、子どもたちが自然に親しめるように「ビオトープ」を園庭に作りたいという藤森統括園長の構想は、変更を余儀なくされましたが、防音壁が施された建造物の中は、明るい日差しが差し込み、園児が自由に遊び回れる空間に生まれ変わりました。「百聞は一見に如かず」。見学ご希望の方は03（3410）5258まで。（Ｉ）

社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団　広報紙「扉」 第2号

●発行日：2017（平成29）年6月1日
●発行所：社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団
東京都世田谷区下馬2-21-11
TEL. 03（3422）7211 FAX. 03（3422）7227
http://www.n-friends.or.jp
●編集・発行人：飯田能子

扉

新しい福祉サービスの創造へ
TOBIRA

日本フレンズ奉仕団ニュース
第２号
2017年6月1日発行

光差す園庭で（新園・ララ保育園）

待たれた新園の開設に寄せて……2
「拠り所」という保育園のあり方
社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団 児童福祉部門 統括園長　藤森 守

新園・ララ保育園について……3
スポットライト 職員紹介 No.2 おともだち・ララ保育園保育士　柳 智美

フレンズ・トピックス……4
高齢者福祉部門の全事業所が参加して　職員研修大会（第５回）

待たれた新園の開設に寄せて

「拠り所」という保育園のあり方

社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団
児童福祉部門 統括園長
藤森　守

2歳児保育室

おともだち保育園の歩み

おともだち保育園が、この世田谷区下馬に開設してから60年以上が経つ。重要なことは、この地にあり続けるという月日の重さである。この重さが地域に根付くということであろう。おともだち保育園がこの地域の当然の風景となり、子どもも親も、そして祖父母も幼き日々を過ごした成長の記録が、この土地と建物に刻まれている。いつも地域の変化を見つめ、人々を見守ってくれている風景は、何物にも代えることができない心の拠り所となるのではないだろうか。

おともだち・ララ保育園の保育環境

平成29年4月におともだち・ララ保育園が、同じ世田谷区下馬地区に開園した。社会福祉法人日本フレンズ奉仕団の長い歴史に新たなページを刻んだのだが、すんなりと保育園が設立できたわけではない。

多くの乳幼児が生活する場ということで、園児や職員の声、送り迎えの問題など保育園は“迷惑施設"だとする意見も少なからずあった。そこで話し合いを重ね、当初の計画に修正と工夫を重ね、3年以上の月日をかけて完成に至った。特に園舎は、近隣住民に配慮しつつ、幼い子どもたちが生活するにふさわしいおだやかな環境をどのように作ればよいかに腐心した。例えば、園舎の周囲のスペースを広く取り、園庭は中庭とし、広いベランダを中庭のまわりに配置した。これは、“縁側"という発想を取り入れ、外と内の境目で、乳幼児のゆったりした生活の場面を作り出そうとしたものである。

このような静かな保育園という環境づくりが、子どもたちの生活の場としてふさわしい環境になるように、工夫と実践を積み重ねていきたい。それが、この地に保育園を設立した意味でもあるように思う。

「拠り所」という保育園のあり方

おともだち・ララ保育園はこれからが本番である。子どもたちが生活する場としてふさわしい保育を実現させると共に、地域の子育ての核として、着実に事業を進めていかなければならない。様々な取り組みやかかわりを通して、一日一日が大切な成長の日々となり、やがてはこの地域になくてはならない風景となってほしい。子どもたち、親、そして地域の人々の「拠り所」として、共に成長していくことを願っている。

2階テラス。左・防音壁

5歳児保育室のトイレ

敷地内通路(フェンスの外は公道)

新園・ララ保育園について

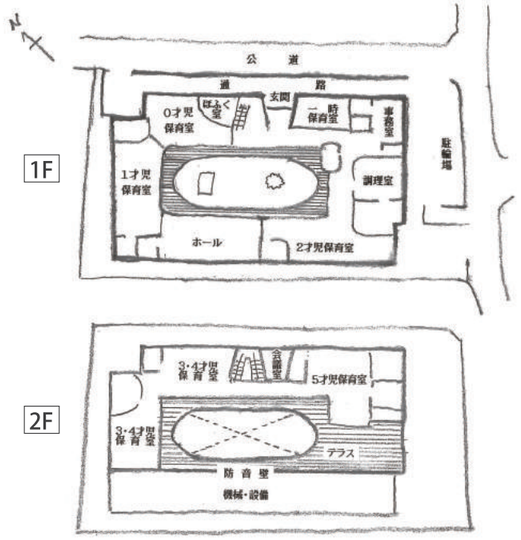
おともだち・ララ保育園は、日本フレンズ奉仕団・児童福祉部門の4番目の保育施設として、平成29年4月1日に開園しました。定員は90名。開園時は0~3歳児を中心に51名が在籍しています。

新園はフレンズホーム、おともだち保育園から歩いて3分ほどの住宅地に建てられました。園舎は周囲の環境に融合するような配慮がされているのが特徴です。鉄筋コンクリート2階建で、保育室は6部屋。ほかにホール、調理室、事務室、更衣室、会議室、相談室等があります。

園舎の中に庭があり、子どもたちは安心してここで遊ぶことができます。また、防音・外気温の遮蔽に優れており、空調設備が完備され、毎日快適な生活を送ることができます。すぐ近くには広い公園があり、保育の環境はとても良いと思います。

今後は園児とその家族だけではなく、地域に開かれた保育園を目指していきたいと考えています。家庭にいる親子にホールを開放したり、栄養士による離乳食の講習会、子育て相談などを検討しています。また、地域の方々との世代間交流も企画したいと思います。

新入職員オリエンテーション～理事長から歓迎の挨拶～(ホール)



世田谷区は保育園に入りたくても入れない、いわゆる「待機児童」が多い地域です。特に母親の育児休暇が終わる、1歳から2歳児の入所希望が大変多いのが現状です。私たちは、ただ子どもをたくさん受け入れて「つめ込み」の保育をするのではなく、適切な人数とゆとりのある空間を大切にしています。「待機児童」の解消に向けて、おともだち保育園と2カ所の分園とともにフレンズらしい保育を追求していきたいと思います。

スポットライト 職員紹介 No.2

おともだち・ララ保育園 保育士　**柳　智美**

故郷の宮崎で保育士養成の短大を卒業して、憧れの東京に出て来ました。始めは会社勤めをしていましたが、やはり保育の仕事がしたくて、派遣社員としておともだち保育園に入職しました。子どもたちに囲まれて毎日楽しく過ごし、その後正社員として採用していただきました。結婚・出産・育児休暇を経て、今年の4月から二人の子どもを保育園に預け、開園したおともだち・ララ保育園へ異動しました。保育士として仕事をしていると、自分が生き生きとしてくるのが感じられます。園児のみんなが「明日も保育園へ行きたい！」と言ってくれるような楽しくてわくわくするような保育をララ保育園で実践していきたいと思います。